

都市環境整備研究報告 3－(5)

住宅地における老人のための
地域施設の使われ方と意識

長 倉 康 彦

東京都立大学
都市研究委員会
1971・3

目

次

まえがき

I 老人いこいの家の使われ方調査	1
施設登録者の利用距離分布	1
施設利用者の利用距離分布	2
年代別と男女別の利用距離	3
利用者の交通手段	4
利用者の施設滞在時間	4
利用者数と頻度	5
利用者の変動と生活スケジュール	6
施設内の生活の状況	7
ま と め	7

II 老人の生活と意識に関する調査	9
家族構成について	9
家庭内における“だんらん”の相手	9
住居について	11
健康について	11
職業に関する事	13
日常の生活	15
趣味について	17
老人いこいの家について	18
居住地のある目黒の価値	19
ま と め	19

図 表 目 次	20
---------------	----

ま え が き

老人いこいの家と総称される老人のための地域厚生施設は、各自治体で漸次建設される様になってきている。この老人いこいの家は、老人の福祉の向上のため、おもにリクリエーションの立場から、昼間の生活の場を与えることを目標にして整備されつつあるものである。本稿は、老人のための地域施設の計画論をもとめる一助にすべく、住宅地として目黒区をえらび、これらの施設の側から、その利用の状況をできるだけわしく調査検討した結果をまとめたものである。

目黒区における老人いこいの家は7施設あるが、東京都区部には約100施設を数え、老人人口(60才以上)7,000人に対し1施設という状況にある。建物は平均150㎡程度であってRC造が60%をしめる。区民館や福祉会館などに併設されている例もあり、和室を中心に、娯楽室、ホール、浴室、相談室、機能回復訓練室などをいくつかあわせて構成されている。

60才以上の老人に対して原則として無料で、昼間9時～5時まで自由に利用できる形式をとっている。

使われ方についての分析結果は、第I編に要約したが、これら施設の側からの利用を検討することは、計画論の一部をおおうことはできてもそれだけでは不充分であって、利用者および利用していない人達の要求・意識を併せ知ることが、次に必要と考えられる。このため、同地区の在住老人から、60才、70才、80才代の老人150名を任意に抽出し、老人の生活の状況と意識とを16項目について、インタビュー調査を行ったが、この結果を第II編に要約しめした。本来老人の地域厚生施設のあり方は、高年令層の世帯に対する住宅を今后どの様に考えてゆくかということ、不可分の関係にあり、それらの体系の中で検討してゆくことが重要と考えるが、第一段階の成果として本研究の内容をとらえ、今后その方向において研究を発展させてゆきたいと思う。

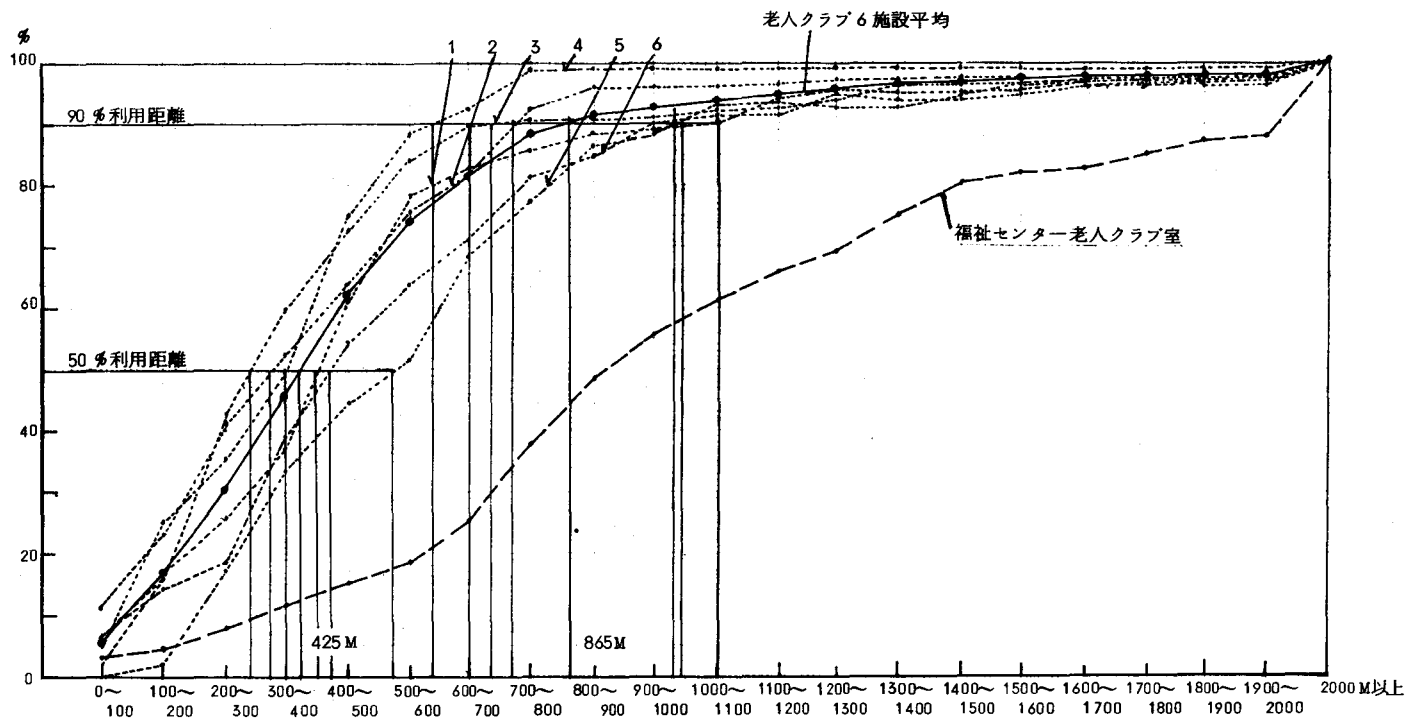


図-1 施設別累積分布図

I 老人いこいの家の使われ方調査

施設登録者の利用距離分布

1. 地域施設を利用する場合には、施設の分布すなわち施設の近さが利用の一因になっていると思われるが、目黒区の老人クラブの場合にはどうか、その様な状況を見るために、目黒区の老人クラブが利用の際に登録した名簿を利用して（区内の60才以上の老人人口の約6.5%がこれらの老人クラブに登録している）、利用者の住所を地図上にプロットし、施設までの直線距離を測定した上で直線距離別に頻度累積してみた。この結果は図一1の様になっている。

2. 前記の結果を更に簡単に指標化するものとして次に50%利用距離（注50%分布距離とは、施設を中心に、登録者の住所の近いものから累積していった時、全登録者の50%に丁度達した時の距離を言う。90%分布距離も同様の意味に用いる。）を設定して見ると表一1の様になっている。

施 設 名	登録者数	男	女	50%分布距離	90%分布距離
上目黒老人クラブ	264人	46%	54%	430M	1160M
中目黒老人クラブ	148人	40%	60%	450M	1320M
下目黒老人クラブ	64人	34%	66%	470M	990M
向原老人クラブ	167人	34%	66%	310M	630M
八雲老人クラブ	88人	34%	66%	560M	1250M
自由ヶ丘老人クラブ	120人	33%	67%	530M	1450M
福祉センター	840人	42%	58%	1245M	2000M

表一1 施設利用者の50%と90%利用距離

50%利用距離は、福祉センターを除き平均430M、90%利用距離は同様1,130Mである。全体に（福祉センターを除き）800M程度までは平均に分布している。福祉センター老人クラブは、その目的にも関連しているが、分布距離は大きく約2倍の分布圏域を持っている。男女比を見ると各施設とも女子の登録者が多い。ちなみに目黒区における60才以上の人口の男女比は47：53である。

施設利用者の利用距離分布

3. 各施設の1カ月間の利用者の調査を行い、前記と同様に50%利用距離等を見ると表一2の様になる。

施 設 名	50% 利用距離	90% 利用距離	備 考
6つの老人クラブの平均	430	870	500M程度から急激する
福祉センター老人クラブ	920	2000	1500M # #

表一2 施設利用者の利用距離

登録者の利用距離よりは、実利用者の利用距離の方が短い、しかし
 50%利用距離ではあまり変わらず、90%利用距離で、300M程短か
 くなっている。目黒区の南部にある老人クラブは利用距離が短かく、北部
 住宅地にある老人クラブは利用距離がやや長い。50%利用距離で100
 ～150M、90%利用距離で200～300M違う。福祉センターと他
 の施設との比較ではセンターは知名度が高く、社会教育施設の色彩もある
 ので、利用距離も長くなっている。しかし登録距離よりは短い。

年代別と男女別の利用距離

4. 年代別に50%、90%利用距離についてみると表一3の様になってい
 る。

	50%利用距離			90%利用距離		
	60才代	70才代	80才代	60才代	70才代	80才代
6つの老人クラブの平均	410M	417M	460M	983M	881M	745M
福祉センター老人クラブ	883M	978M	564M	2000M	1883M	2000M

表一3 年代別利用距離

50%利用距離でみると、年代の差ははっきりしていないが、90%利
 用距離では高年令年代の利用者の利用距離は200M程度おちる。

5. 男子と女子の50%、90%利用距離についてみると表一4の様になっ
 ている。

	50%利用距離		90%利用距離	
	男	女	男	女
6つの老人クラブの平均	488M	405M	1040M	830M
福祉センター老人クラブ	821M	1109M	2000M	2000M

表一4 男女別利用距離

男子と女子の利用距離の差は、6つの老人クラブの場合、女子の方が利用距離が若干短くなる傾向がある。

利用者の交通手段

6. 6つの老人クラブの利用者の来館手段は90～98%が徒歩によっている。少数の交通機関利用者は、バス利用が多く、自転車利用はない、自家用車送迎は少ない。福祉センターは徒歩利用者が67%で、その他はバス、電車等を利用する者が多い。
7. 徒歩による利用者の90%利用距離は表一5の様になっている。

施 設 名	徒歩利用者の90% 利 用 距 離
上目黒老人クラブ	870
中目黒老人クラブ	760
下目黒老人クラブ	600
向原老人クラブ	620
八雲老人クラブ	790
自由ヶ丘老人クラブ	940
福祉センタークラブ	1340

表一5 徒歩利用者の90%利用距離 (M)

6つの老人クラブは600～900Mで、福祉センターの場合1300M程度になるが、徒歩以外の利用者も含めた分布より、福祉センターは特に狭い範囲になる。

利用者の施設滞在時間

施 設 名	男 子	女 子	平 均
上目黒老人クラブ	170	210	200
中目黒老人クラブ	170	210	200
下目黒老人クラブ	200	250	240
向原老人クラブ	220	180	190
八雲老人クラブ	230	300	300
自由ヶ丘老人クラブ	220	240	230
福祉センタークラブ	190	210	200

表一6 施設滞在時間 (分)

8. 福祉センターを除く6つの老人クラブでは、滞在時間の平均は3時間半～5時間程度で、女子の方が滞在時間は一般に長い。2時間以下で帰るものも少ない。6時間以上滞在する例は、八雲老人クラブの女子（50%近い利用者がそれにあたる。）を除き一般に15%程度の利用者がそれにあっている。

利用者数と頻度

	利用者 人/日	実利用 者人/月	平均 利用 回数	1回	利用回数別実利用者数				
					2～5 回	6～ 10回	11～ 15回	16～ 20回	20回 以上
上目黒老人 クラブ	19.8	86	5.1	14	49	10	9	4	0
中日黒老人 クラブ	21.9	43	10.7	3	13	7	8	10	2
下目黒老人 クラブ	17.3	85	4.2	25	39	11	8	2	0
向原老人 クラブ	16.7	52	7.1	6	23	10	6	4	3
八雲老人 クラブ	16.9	62	5.9	17	27	11	6	1	0
自由ヶ丘老 人クラブ	20.5	102	4.4	28	45	20	7	1	0
福祉センター	45.4	224	4.9	43	127	29	15	9	1

表一 利用者数と頻度

9. 1カ月間に区の老人いこいの家を利用した者は合計654人で、区内の60才以上の老人人口の2.5%にしかすぎない。極めて低率である。登録者の約3割しか使っていない。利用回数は平均6回であり、10回を越す施設もあるが、利用者にとって老人いこいの家の生活は、全生活の一部分にしかすぎないという状況をみせている。同一人の利用回数は月2～5回程度が多く、ついで月1回程度が多い。月に16回以上も利用しているという利用者は、各施設とも多くて10人程までで全体では全利用者の5%程度にしかすぎない。

10. 利用時の1人当り延面積を、平均でもとめてみると、7.5～9.8㎡/人程度にあり、室部分のみでいえば1人あたり2～3帖の利用ということになっている。したがって施設制約型の利用になっているわけではない。

利用者の変動と生活スケジュール

施設名	利用者の 市人/日	利用者の傾向	利用のタイプ
上目黒老人クラブ	10～30	生活スケジュールがあり、向もしない日は急激	
中目黒老人クラブ	10～35	おどりの時間が決まっている。 利用者数変動少ない。	ひまつぶし型
下目黒老人クラブ	6～29	茶道(外)、書道(内)に利用者多く、 おどりの日(内)は少ない。	目的型
向原老人クラブ	5～29	茶道の時間が決まっている。利用者数の変動少ない。	ひまつぶし型
八雲老人クラブ	5～29	水墨画の日に利用増える。	
自由ヶ丘老人クラブ	4～39	おどりは多く、茶道は少ない、 利用者の変動多い。	目的型
福祉センター	8～85	おどり、民謡の日に利用多い。	

表一八 各施設月間変動による利用者の幅

11. 利用者の月間変動と天候との関係はあまりみられない。強風強雨の日はやはり少くなっている。生活スケジュールを持つクラブは利用者は増加するが、その内容、指導者によって利用者数は変化する。生活スケジュールは茶道、華道、おどり、書道、民謡、水墨画、人形づくり、健康講座等が用意されている。そしてこれらの用意のされ方で、＜ひまつぶし型の老人いこいの家＞、＜目的型の老人いこいの家＞、その＜中間型＞という様に分けてみることが出来る。福祉センターを除き、このスケジュールは自主的に編成、自主的に運営されている。したがって生活スケジュールを持つ程度、内容は多分に利用者の中に指導的な人がいるかどうかにかかっている。施設面積によって制約をうけるという様子はみられない。したがって＜ひまつぶし型＞の運営になっているものは、部屋数を数室もちながら1

室のみしかつかっていないという状況になりやすい。生活スケジュールを多く持つところは、これに対応して室を分けて利用している。

施設内の生活の状況

12. 男女が別々の室を利用するもの、同一室に男女がそれぞれ入るもの、の両方があり、3室以上の時は男女別々の室を利用するものの他に一緒にいる室があるというケースになっている。男女が別々の室を利用するものでは、男子は碁、将棋、女子はおどり、民謡を行うといった目的をもった室利用が行なわれている。男女が同一室の場合はひまつぶし型になる例が多い。年代別に分れることはほとんどない。一例だけ高年令層がいつも一緒になって一室を占めている例があった。又浴室がある場合、浴室の利用は高く、利用者を増加させている。

ま と め

- 地域施設として老人の施設を活用する者の分布範囲は600～800m程度とみるべきである。
- 老人の徒歩圏域は900m程度が上限とみたい。
- 老人いこいの家の利用はほとんど徒歩で行なわれる。
- 老人いこいの家の利用は女子が多い。しかし広域的な施設として行事等をもつ場合は男子も多くなる。
- ある施設の50%利用距離の中にいても、他の隣接施設の90%の利用距離ににいるというケースもあるが、これは交友の関係から誘引されたものである。圏域を600m程度に考えて施設を整備し、施設を選択できる様にすることは望ましい。
- 1カ月間の調査であるが、利用者は区内老人人口(65才以上)の2.5%にしかすぎない。
- 同一人の月間の施設利用回数は平均6回で、多い施設で10回、少ない

施設で4回である。つまり老人いこいの家を利用する老人にとっても、老人いこいの家の生活は、日常生活の大半を占めるものとはなっていない。

- 老人いこいの家において、自発的な生活スケジュールを持つ時、利用は一般に増加する傾向にある。社会福祉から社会教育の施設に位置づけることも必要であろう。生活スケジュールをつくりだせるための方法も必要である。
- 休憩、集会室、和室の利用は、もし2室以上設けられる時は男女別に利用する。生活スケジュールを持たないと、4室、5室と室数を増しても利用は低くなる。2階の小室は利用されにくい。
- 浴室の利用は非常に歓迎される。

Ⅱ 老人の生活と意識に関する調査

家族構成について

家族構成	男 子			女 子			平均
	65	75	85	65	75	85	
1人で生活している老人	2.0	9.3	2.2	4.0	10.0	2.0	6.6
配偶者と生活している老人	86.0	58.1	26.7	52.0	18.0	8.0	16.8
家族と同居している老人	82.0	67.4	84.4	80.0	88.0	98.0	83.7

表一〇 家 族 構 成

1. 1人で生活している老人の比率は75才に高く、65才、85才は低い。
75才では10%の老人が1人で生活している。配偶者と生活している老人は、年齢が高くなる程その率は当然高くなる。女子の方がその比率は低い。8割近い老人は家族と同居している。女子の場合85才になると、ほとんどすべてが家族と同居している。男子の75才が低い値を示すが、これは中間老人ともいうべき性格を示すのではないか。

家庭内における「だんらん」の相手

2. 配偶者とのだんらんのケースは、男子の場合年齢が高くなると少なくなるが、女子はそれ程でもない。息子、娘とのだんらんのケースは男子の場合少なく、女子の方が多い。息子夫婦、娘夫婦の場合は、息子、娘の場合よりもだんらんのケースは多くなる。男子の場合65-75才という年齢層よりは高年齢層の方が高い。女子の場合は一般に高い。孫とのだんらんはそう多くないが、年齢が高くなると又女子の方が高くなる。

	65才男子		75才男子		85才男子		65才女子		75才女子		85才女子	
	家族構成	だんらん の相手	家族構成	だんらん の相手	家族構成	だんらん の相手	家族構成	だんらん の相手	家族構成	だんらん の相手	家族構成	だんらん の相手
1人	2		9		2		4		10		2	
配偶者	86	80	58	53	27	16	52	40	18	16	8	8
息子	28	22	9	5	7	4	18	8	2	2	2	2
娘	32	20	16	9	7	7	4	4	14	14	20	20
息子夫婦	44	20	46	42	53	42	52	42	54	18	56	50
娘夫婦	6	4	8	2	11	11	10	6	12	10	18	10
孫	38	18	51	19	64	33	56	36	70	46	82	43
しんせき	4	2	2	—	13	7	5	2	6	4	4	2
その他	—	2	—	2	9	—	—	2	4	4	—	—

表一10 家族構成はそれぞれの該当者をもつ者の全体に対する100分比

(%)

住居について

	持家	借家	公営アパート	私営アパート	間借	その他	個室所有	個室ナシ
男子	80	9	1	4	6	—	86	14
女子	73	13	1	8	4	—	73	17
平均	76	11	1	6	5	—	79	21

表-11 男女別居住形態

3. 持家に居住するものが8割近く、個室を所有するものが8割近いという状態になっている。女子の方が個室所有の比率が低いことも特徴的である。
4. 住宅規模を広い、普通、狭いという三段階に分けて、面接者が判断した（感じ）結果を参考までに記すと、広い23%、普通51%、狭い26%という結果になった。

健康について

5. 健康状態については、地域施設の利用という観点から、次の3つに区分してこれ該当させる形で設問した。

健康——外出にまったく支障ない。

病弱——不自由であるが、外出出来なくはない。

病体——全く外出出来ない。

この結果をしめしたものが表-12である。

	男子			女子			平均		
	65	75	85	65	75	85	男子	女子	全体
健康	84.0	53.5	40.9	76.0	54.0	24.0	60.6	51.3	55.7
病弱	14.0	39.5	36.4	20.0	38.0	48.0	29.2	35.3	32.4
病体	2.0	7.0	22.7	4.0	8.0	28.0	10.2	13.3	11.8

表-12 健康状態について

6. 表の様に、65才男子は86%、女子76%が健康で全く外出に支障がない。75才の男子、女子は共に54%、80才の男子40%、女子24%であって、年齢とともに健康なものは減っている。不自由であるものも含めて、外出出来ると考えられる者は、65才はほぼ全部、75才では9割、85才では7割である。

	男 子			女 子			平 均	
	65	75	85	65	75	85	目 黒	江 東
寝たきり	2.0	4.7	20.0		2.0	16.0	9.0	5.6
入 院	2.0		2.2	2.0			0.8	1.4
そ の 他	96.0	95.3	77.8	98.0	98.0	84.0	90.2	93.0

表一 13 寝たきり老人について

7. 表一 13 の様に寝たきりの老人は、65才ではほとんど少ないが、75才男子では5%、女子は2%、そして85才になると20%近くを占める。

階 層	男 子			女 子		
	65	75	85	65	75	85
外 出 に つ い て						
好 き	59.2	47.6	37.2	52.0	46.0	27.1
嫌 い	38.8	52.4	51.2	48.0	52.0	79.2
不 可	2.0		11.6		2.0	14.6

表一 14 外出について

8. 外出について、外出を好むか、好まないかは、年齢が高くなると外出を好まない老人が増える。65才でも外出を好まない老人が4割もいる。女子の方が外出を好まない傾向があった。
9. 外出先の訪問では、友人の家、しんせきの家と答えるものが多いが、65才の男子の場合は、パチンコ店、飲屋、芝居、映画、などと答える者が多い。地域施設（老人クラブ等）へ出かけるケースはほとんどの

対象には出てこなかった。

職業に関する事

	男 子			女 子		
	65才	75才	85才	65才	75才	75才
無 職 の も の	20	70	79	76	96	100
職業をもつもの	80	30	21	24	4	—
経 営	20	—	40			
商 業	10	17	—	17		
職 人	10	—	—			
工 員	—	—				
事 務 員	20	33				
雑 役	—	—				
そ の 他	40	50	60	83	100	—

表—15 職業に関すること

10. 職業をもつものの比率は、年齢が上ると減少する。65才代は男子が80%が有職者であり、又65才代の男子は職種構成も多彩である。85才の場合でも男子は経営などに参画している場合には有職者たり得ることもあるわけである。その他のケースは全くない。

	男 子			女 子		
	65	75	85	65	75	85
自 分 の 生 活 の た め	29.8	21.4	33.3	71.4		
家 族 の 生 活 の た め	55.3	7.1	33.3	7.1	75.0	
生活のためではない、遊んでより良い	10.6	50.0	33.3	7.1	25.0	
健 康 の た め	2.1	14.3				100
手不足のため手伝っている		7.1		7.1		
こずかい銭を得るため						
そ の 他	2.1			7.1		

表—16 就 労 理 由

11. 男子65才では就労の理由が、“家族の生活”が55%、“自分の生活のため”が30%で大部分を占めるが、75才ではこの2つの理由が減少し、“遊んでいるより良い”、“健康のため”の理由が多くを占める。

階層 継続の意志	男 子			女 子		
	65	75	85	65	75	85
続 け た い	82.9	58.3	50.0	100	100	100
や め た い	2.9	33.3	50.0			
もっとやりたい	14.3	8.3				

表一17 仕事継続の意志

12. 男子65才では83%、75才60%、85才50%が続ける希望を示し、もっと仕事をしたいという回答例も合わせて、75才までは就労について意欲的であることが示された。

階層 仕事を していない理由	男 子			女 子		
	65	75	85	65	75	85
必 要 な い	9.1	36.7	45.7	64.9	52.0	50.0
し た く な い	9.1	6.7	8.6		2.0	
で き な い	54.5	40.0	37.1	18.9	26.0	41.7
適当な仕事がない	27.3	16.7		8.1	16.0	2.1
家族が反対する			2.9	2.7	2.0	6.3
そ の 他			5.7	5.4	2.0	

表一18 仕事をしない理由

13. 仕事をしていない者に対して、仕事をしていない理由を設問したが、適当な仕事がないという理由のもの27%(65才)は一般的に言って問題となるところではある。65才の女子、75才、85才の老人の場合は、“仕事をする必要がない”と答えたものが40-60%ある。

日常の生活

	男 子			女 子		
	65	75	85	65	75	85
ブラブラしている	45.5	40.7	38.9	8.1	8.5	55.1
テレビ、家事、外出	45.5	48.1	47.2	78.4	74.5	40.8
老人クラブ、映画等外出	9.1		2.8	6.1		
そ の 他		11.1	11.1	8.1	19.1	7.1

表一 19 仕事をしていない老人の週日の生活

	男 子			女 子		
	65	75	85	65	75	85
平日と変わらず	100	92.6	94.6	88.6	93.2	100
日曜、会合、出席		3.7	2.7	2.9	4.5	
日曜のことを決めてありそれを				8.6		
そ の 他		3.7	2.7		2.3	

表一 20 仕事をしていない老人の日曜日の生活

14. 仕事をしていない老人の週日の生活は、男子は各年代とも“ねたり、おきたり、ぶらぶらしている者”が40％前後、“テレビを見たり家事をしたり”している者が80％近くを占める。85才代では積極的に外出することは考え難い。日曜日の生活も、週日の生活と全く変わらないとするものが大半を占める。（表一21）
15. 仕事をしている老人にとって、日曜日の生活は、のんびり休むという様に日曜日を日曜日として考えている者は、65才、75才の男子に50％近くあるだけである。（表一22）

階 層	男 子			女 子		
	65	75	85	65	75	85
日曜日の生活						
平日と変わらず	35.0	28.6	57.1	53.3	100	100
ノンビリする	47.5	50.0	14.3	33.5		
日曜の会合に出席	5.0	7.1		6.7		
日曜日にすることを決めてありそれをする。	2.5	14.3	28.6	6.7		
そ の 他	5.0					

表一 21 仕事を持っている者の日曜日の生活

	男 子			女 子		
	65	75	85	65	75	85
い る	42.0	58.1	64.4	38.0	36.0	38.8
い な い	58.0	41.9	35.6	62.0	64.0	61.2

表一 22 近所に親しい親せきが住んでいるか

16. 親せきとの交際についてみるために、親せきが住んでいる状態についてきくと、40～60%の人達が親しい親せきが住んでいる状態にあり、この親せきとは親しく交際している状況がみられる。

	男 子			女 子		
	65	75	85	65	75	85
い る	82.6	58.1	82.1	90.9	36.0	81.8
い な い	17.4	41.9	17.9	9.1	64.0	18.2

表一 23 親しい親せきとの交際

	男 子			女 子		
	65	75	85	65	75	85
い る	48.0	56.1	43.2	68.0	48.0	42.0
い な い	52.0	43.9	56.8	32.0	52.0	58.0

表一 24 友人との交際

17. 親しい友人が近所にいるかどうかは、約半数の老人がいると答えているが、年齢層が高くなるにつれて、やや交際の度合いはおちるようである。

趣味について

	男 子			女 子		
	65才	75才	85才	65才	75才	85才
碁、将棋	①	②				
おどろ、民謡、小唄		③		①		③
テレビ等		①	①	②	①	①
読書			②		②	
酒、パチンコ等の娯楽	②		③			
スポーツ的	③					
茶道、華道、書道				③		②
映画、芝居					③	

表-25 趣味について

18. 趣味について回答したものから、上位8種類のものについて年代別に順位をもとめてみると、テレビ等と答えたものが多く、その他男女別にちがいはあるが、ほぼ老人の趣味の一般像をしめしている。テレビは何を見るかという設問には、とくにはっきりした回答はなく、結局何となくひまつぶしをしているという傾向と考えられる。

階 層	男 子			女 子		
	65才	75才	85才	65才	75才	85才
老人クラブについて						
老人クラブを知っている。	72	95	61	68	71	76
老人クラブを知っていない。	28	5	39	32	29	24
老人クラブに加入している (よく行く)		10		5	8	13
老人クラブに加入している (あまり行かない)	14	45	22	27	33	17
老人クラブに加入していない (将来も行かない)	73	40	67	59	50	70
老人クラブに加入していない (加入したい)	13	5	11	9	9	—

表-26 老人クラブについて

19. 各年齢階層を通して60～70%の老人が、老人クラブの存在を知っている。逆に30%近い老人は老人クラブを知らないという点は注目しておきたい。積極的、消極的な活動を含めて、男子では75才が老人クラブとかわる姿勢を見せ、65才(若いためか)、85才にはそれが少ない。女子では30～40%が老人クラブに関連した意識を持つ。
- 加入したくない、将来とも加入したくないとする者は、各年代を通じ50～70%近い。75才代の老人のみその値は少ない。加入したくない理由としては“何となく気がすまない”という理由が30～45%を占める。

老人いこいの家について

階 層	男 子			女 子		
	65才	75才	85才	65才	75才	85才
老人いこいの家について						
老人いこいの家を知っている	76	60	58	60	58	38
“ 知らない	24	40	42	40	42	62
“ によく行く	4.5	5.6	—	—	.5	—
“ に時々行く				100	5	—
老人の家には行く気なし	77.3	78.0	83	78	77	83
“ 行かないが行ってみたい	18.2	11.1	11.1	20	15	— (9)

表一27 老人いこいの家について

20. 老人いこいの家については各年齢層とも、老人いこいの家を60～70%の老人が知っている。知らない者にも説明してのち設問した結果では、“よく行く” “時々行く” の積極的な利用は、男女各年齢層を通じて10%程度である。“行くつもりはない” という回答は70～90%近くを占め、この地区の老人の意識を示す。この理由について設問した結果では、年代と男女の別でかなり違ってはいる。

居住地のある目黒の標価

21. 目黒区においては90%以上の老人が現住区に住んでいたいという理由を示す。この理由は、長い間住んでいるとか、他に移り住むところもないから、というものが多し。又現在住んでいるところについては、全体に86%の老人が、移転することを好まない。

ま と め

老人の寿命は次第に長くなってきているが、老人の身体も、健康な者が多く、充分な社会的活動ができる条件を備えた者も多い。男子は75才代において老人と考えることができる様である。65才代は未だ壮年の意識と生活をもつ。女子は65才代で、すでに老人の意識と生活を持ちはじめる。一般に生活は受動的で、閉鎖的である。老人の地域的な社会活動の展開に対しては、無関心あるいはきらい傾向すらみえる。幸福な部類だろうという答をもつものは多い。老人と考えられる年齢でも、75才と85才とではその生活と意識とはかなり異なり、特に男子の場合であるが、女子はそれが少ない。趣味についてはかなり一致した答が出ている。

図 表 目 次

図 一 1	施設別累積分布図	1
表 一 1	施設利用者の 50%と 90%利用距離	2
表 一 2	施設利用者の利用距離	2
表 一 3	年代別利用距離	3
表 一 4	男女別利用距離	3
表 一 5	徒歩利用者の 90%利用距離	4
表 一 6	施設滞在時間	4
表 一 7	利用者数と頻度	5
表 一 8	各施設月間変動による利用者の幅	6
表 一 9	家 族 構 成	9
表一 10	「だんらん」の相手	10
表一 11	男女別居住形態	11
表一 12	健康状態について	11
表一 13	寝たきり老人について	12
表一 14	外出について	12
表一 15	職業に関する事	13
表一 16	就 労 理 由	13
表一 17	仕事継続の意志	14
表一 18	仕事をしない理由	14
表一 19	仕事をしていない老人の週日の生活	15
表一 20	仕事をしていない老人の日曜日の生活	15
表一 21	仕事を持っている者の日曜日の生活	16
表一 22	近所に親しい親せきが住んでいるか。	16
表一 23	親しい親せきとの交際	16
表一 24	友人との交際	16
表一 25	趣味について	17
表一 26	老人クラブについて	17
表一 27	老人のこの家について	18

昭和46年2月25日 印刷 規格表第2類
昭和46年3月1日 発行 登録番号第154号

都市研究報告 第13号

編集・発行 東京都立大学都市研究委員会

代表者 中 野 尊 正

東京都目黒区八雲1-1-1